

12/19 韩月

介護の場悲鳴



■ 情報を公開 ■ 消毒徹底 ■ 施設、ネットに絆緼

約40人態勢で運営しているが、自宅待機などで23人がシフトから一時外れた。8時間だった夜勤は16時間に。疲労が蓄積し、感染の不安を訴えるスタッフが相次いだ。

しかし、施設長の田中智子さん（61）は、感染状況や対策などをウェブサイトで発信し続けた。「隠しても仕方がない。情報公開と家族への説明を優先させた」と田中さん。事態を知り、支援してくれる人も増えた。

看護師の指導を受け、予防策を改善した。毎朝の消費は1時間かけて丁寧に、食器は使い捨てに。防護服や手袋、マスクはケアするたびに捨てる。田中さんは「ウイルスはどこにでも存在している」という意識を持つて行動しなければいけない」と語る。（辻健治）

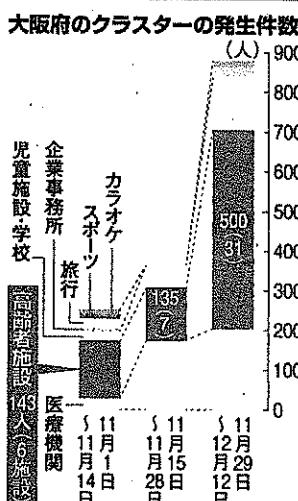
新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、介護事業所などの高齢者施設でクラスター（感染者集団）の発生が相次いでいる。医療体制の逼迫により、感染が判明してもすぐに入院できずに施設で一時療養を強いられるケースがあるうえ、職員への感染拡大は地域の介護サービスにも影響する。行政も対策に乗り出した。

「みんな躍る張っていたが、限界を超えていた。介護現場も逼迫している」。介護現場も逼迫している。最近クラスターが発生した大阪府内の高齢者施設の職員は悲痛な声で訴えた。員は認知症の高齢者が入所す

るこの施設で今秋、入所者が数人が発熱した。PCR検査の結果は、全員が陽性。高齢者は重症化リスクが高いので施設側が全員の入院を行政側に求めたが、症状が軽かつた入所者は「入院

調整」として数日間入院を待たされ、その間は施設内で療養をした。

厚生労働省によると、同一の場所で2人以上の感染者が出た全国300件（今月14日現在）の事例のうち、最も多かったのは飲食店での676件だが、高齢者福祉施設でも421件発生している。



特に高齢者施設でのクラスターが発生が目立つ大阪市は現在、職員が無症状でも民間検査機関を活用して定期的に無料でPCR検査を受けられる態勢作りを検討中だ。一方、厚労省は10月に介護現場向けの感染対策の手引を作成。また、すべての介護事業所を対象に、感染症が発生した場合を想定した訓練を義務づけた方針だ。